

随筆
どんほの目

殿本 警山

私の近所と言へば揃つてタツタの二軒それからこの別家寺を隔て、六七軒あるきりそれで私の家から向ふの家へ行くにも向ふからこへおるにもこの寺を通れば本道を通るよりは五分の一位の道のり野菜屋とか魚屋とかその他は好んでこの寺を借りて通るのは必定なんだがさううまうは虎の陣なんだ何故だらうかと誰でも思ふだらうが、それは前に説明しておいた二六の十二人が、關所を張つてゐるんだから堪らない。

「おい困るでねえか、こゝをなんだと思つてた。ふんおれさまがあつたつてお寺さまだぞ、さう通られて堪るものかこの野郎、もう指一本だつてふれさせねえぞ。さつさと戻れおれえらのために、あんな大さな道があるんだ」

妻君「なんて言ふと、あの婆さん、上せるかも知れないが、こゝは少し負けといはは此れ又、夫君にこの場合も妻君の場合と同じ負けぬ怒鳴りやである

「さうだ、こゝには俺ん家の島があるんだぞ、此の野郎、此の間フキをとつた奴だらう、さうにちげえ若し通りたきやあ、持つてるものを置いてから行け」

へえまご／＼せすにさつさとしろ」

といふ調子だからやりきれない、これにはどんな男でも澁々ながら本道へ戻るといふ騒ぎ、なる程、急がば廻れといふ諺もよく當つてゐる。しかし行つてしまふと、「ア、ア、ア、ア」と言ひ合はしたやうに笑ひの合奏が行はれる。見てゐるこちらが口惜しくなる。お墓を通つたで、悪いといふ規則はあるまいと思ふ。魚屋を過ぎなといつた時代は過ぎたのである、しかも野菜屋を通すなどは、昔の人もあきれだらう。又その理由が自分の島が人に踏まれるからと言ふのに於ては益々不審である元はその島だつて墓跡なんだから全く以前代未聞の珍の珍である、その中には参詣人まで追ひ拂はれて堪るものかこの野郎、明かだ。

もう指一本だつてふれさせねえぞ。さつさと戻れおれえらのために、あんな大さな道があるんだ」

妻君「なんて言ふと、あの婆さん、上せるかも知れないが、こゝは少し負けといはは此れ又、夫君にこの場合も妻君の場合と同じ負けぬ怒鳴りやである

「さうだ、こゝには俺ん家の島があるんだぞ、此の野郎、此の間フキをとつた奴だらう、さうにちげえ若し通りたきやあ、持つてるものを置いてから行け」

(完)

今般共融社ヲ設立左ノ業務ヲ取扱ヒマスニ付キ
御用命ヲ希上マス
金融、土地、建物、電話其他ノ仲介
貸金ノ取立及賣掛代金整理、家出人ノ搜索婚姻、其他ノ身元内偵
本社 石城郡平町字十五丁目十二番地
元平警察署刑事係部長
共融社主幹 青田保太
電話(呼出)八〇四番

淋病と消渴に
と云ふ最新薬の服用をお勧め致します。胃腸を害さず、さめめの良い薬です。に病者の方により明かです。

四日分壹圓、八日分壹圓八十錢
製造賣元 水野薬局
平町一丁目
現代に於ける此の進歩せる療法を一度お試し下さい

美術造花 葬儀用達
自轉車 卸商
附屬品
常磐線平町四丁目
山光堂
電話五五〇番

▲時計の病氣は大谷へ
如何なる病氣も直る……
優良なる器械で安く
殊に學生諸君には元價で提供す

大谷時計病院
平三
電話十九番

夏服

◇輕装上衣
黒セル 4.20ヨリ
カシミヤ 10.00ヨリ
◇白上衣 1.60ヨリ
◇白ズボン 2.60ヨリ

輕快でせう酒な夏服の季節とりました。スマートな今年度の新製品が豊富に揃りました。

平二あかや洋服店 電話203

豫告
目録 青葉
食通の好季節
梅詰生ビール 近日開設
ソータフアンテン
尚店舗の内容完備致しました
新郵便局裏
電話八五四番

移轉廣告

店舗改築中三丁目横町藤市蒲錦店向へ一時移轉致しました

移轉中大特賣

夏トンビ レンコート 合着セビロ：大見切
作業ズボン 五十五錢
小學生通學服 四十五錢
夏トンビ 三十五錢
黒セル上着 四十五錢
ネズミセル上着 四十五錢
男女ゴム引マント 一圓十五錢

假營業所 正札堂洋服店
電話四三六番

オートバイ 自轉車 部分品 織田自轉車店

電話五三二番

夏物新製品大賣出し

味溢る、今夏の流行品を
各種豊富に取揃へて
品質に價格に自信ある新安値品
昭和五年流行界の
中形各種陳列
婦人俱樂部ゆかた
昭和調婦女界ゆかた
リョウグ戦ゆかた
表現ゆかた
繪羽模様ゆかた
外十種

粹で 高尚な
紹廣帯と單帶陳列階特賣品
手拭中形 六十五錢
友仙モスリン 五十五錢
紹錦紗、絹友禪、銘仙、モス友仙、モス着尺、蚊帳

三井呉服店
海岸線平町